

末吉・菊池・上原・堀切・恵原

1. はじめに

家具業界が低迷する中、本県家具製造業界もこの例外に
なく、屋久杉家具製造業界においては材料の入手の点でも
問題を抱えており、何らかの転換が問われている。このよ
うな現状を打開する方策の一つとして、当场では8ヶ年に
わたって民芸調家具の開発研究を行ってきた。

その中で、本年度は他産地の民芸調、民芸風家具には見
られない、ユニット式の家具を試作した。

2. 開発の背景

2-1 鹿児島民芸家具としての方向

過去2年間の試作にともなって、検討、研究会の開催が
なされ、現在市場へ出回っている民芸家具の問題点等も洗
い出し、鹿児島民芸家具として次のような方向を指向した。

- (1) 若い世代にも受け入れられる製品の開発
- (2) 都市生活者を対象とする際の狭い空間への対応→小
型・中型を主力とする。
- (3) 材料は県産材を無垢で使用する。
(集成材も広い意味で無垢材と解釈)
- (4) 色調は明るく、しかも落ち着いた感じとする。

2-2 社会的背景

今日、リビングルームは客間としての要素の強い見せる
部屋から、本来の住まう部屋、くつろぐ部屋へと志向が変
ってきていると云われる。また、欧米においても、より床

基本型寸法

巾 奥行 高さ
880×440×380
880×440×760

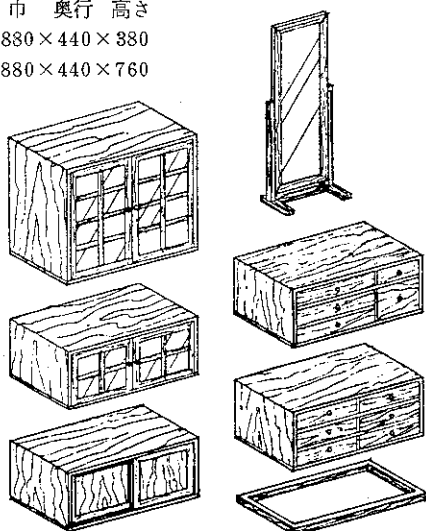


図1 試作製品姿図

に近い位置で暮らす(くつろぐ)低い生活の傾向が進み、
和室の使われ方の良さが見直されてきており、フロアラ
イフという言葉に代表される「くつろぐ=低く暮らす」と
いう考え方が広く浸透してきている。

3. 設計理念

3-1 ユニット式

使い手の多様な使い方を想定し、ある程度システムタイ
クに組み合わせの出来るユニットタイプとする。(図1.2)

- (1) 基本型は、巾、奥行の寸法が880、440(mm)、高さ
が380と760の2種類の箱とする。
- (2) 同じ寸法の箱に、引出しタイプ、引違戸タイプ、ガ
ラス扉タイプ、木製扉タイプ等を用意する。
- (3) オプションとして、棚板、台輪、キャスター、天板、
鏡台(縦長および横長)、脚等を用意する。

3-2 多様用途性

箱物家具ではあるが、収納の機能を第一義的に考えるの
でなく、くつろぐ部屋の補助具として、使い方に多様性の
ある家具とする。(図3)

- (1) 手許に置いておきたいものをしまおう。→収納家具と
しての機能
- (2) 置きもの等に乗せる。→台としての機能。
- (3) よりかかる、もたれることが出来る。→脇息として
の機能。

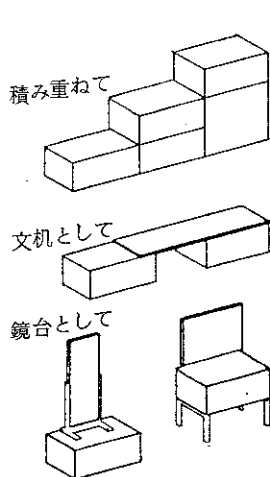


図2 組み合わせの使用例

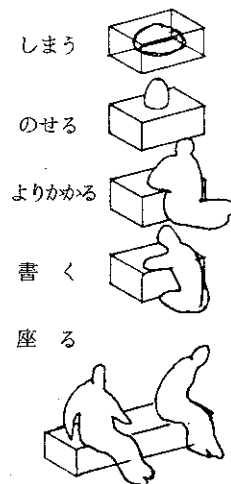


図3 多様用途性の例

(4) 書きもの出来る。→文机としての機能

(5) (洋間での使用の場合)ちょっと腰を下ろせる。→補助椅子としての機能

3-3 低く暮らす

低い生活での使用を前提とし、和室、洋間どちらにも対応できるものとする。(図4.5)

4. 加工、塗装、着色

4-1 加工

クス材の無垢板を使用。面は糸面かごく小さな切面程度にとどめ、よりシンプルなものとした。

天板と側板の接合は7枚組みクギ止めとし、クギ隠しに5mm角の高圧蒸気処理着色によるクス材(暗褐色)を用い全体に簡素な中に唯一装飾性を加味した。

底板部分は台輪も兼ねる構造とし、オプションの台輪無

しでも底に安定するものとした。

4-2 塗装・着色

前年度に開発したシャリンバイによる草木染め技法を用いて着色、ポリウレタン樹脂塗布、摺漆仕上げとし、やや明るい色調とした。

4-3 引手

多様な使い方を前提としているため、圧着しても体を痛めない、ゴム質製品(黒色)を使用。

5. おわりに

現在、高圧蒸気処理によるクス材の着色研究を進めて、好ましい色調を得ており、割れ発生等欠陥の改善も解決の方向にある。今後、この技術を生かし民芸調家具の開発も併せて進めたいと考える。

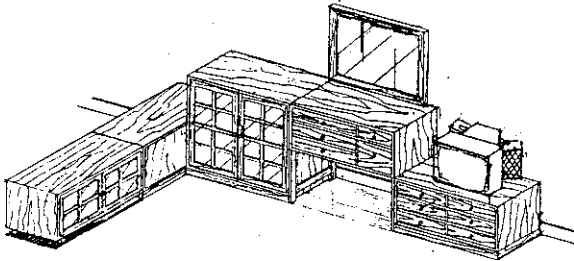


図4 洋間での使用例

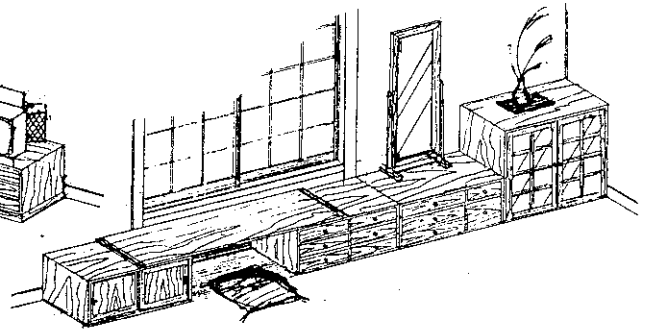


図5 和室での使用例

